「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
（当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください）

	2025 年　3 月　2 日
所属部局・学年	野生動物研究センター・博士課程 2 年
氏　名	板原 彰宏

１．派遣国・場所（○○国、○○地域）

兵庫県丹波篠山市

２．研究課題名（○○の調査、および○○での実験）

丹波篠山実習

３．派遣期間（本邦出発から帰国まで）

2025 年　2 月　18 日　～　2025 年　2 月　19 日　（　2 日間）

４．主な受入機関及び受入研究者（○○大学○○研究所、○○博士／○○動物園、キュレーター、○○氏）

特定非営利活動法人里地里山問題研究所

５．所期の目的の遂行状況及び成果（研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由）

写真（必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの）の説明は、個々の写真の直下に入れること。
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

本実習では、日本各地で問題になっている獣害対策について学んだ。特に、獣害対策が地域の人々と行政をつなげ、地域活性化にまでつながっていることが印象的であった。様々な地域で同様の問題が起きているため、地域と行政・民間企業等がうまく協力しながら、お互いの利益を創出したうえでキャッシュフローも回る仕組みが必要とされている。

1. 地方における少子高齢化や人口減少について
都市部から人を呼び込み、関係人口増加を狙うための数々の施策に興味を抱いた。今やほとんどの地方自治体が少子高齢化や人口減少といった課題に直面している。そこで、地元の魅力や取り組みを広く発信することでその地域に都市部から人を集め、その地域とのつながりを持つ関係人口の創出が必要とされている。地域住民の視点では毎日のありふれた出来事、毎年やってくる当たり前のイベントでも、都市部の方々からすると目新しく、毎日の生活では経験できないことが多い。放置された柿の収穫といった、食育活動として興味を抱かれやすいものから、栗の木の整備や金網策の点検といった少しディープな作業に至るまで、地域で必要とされる取り組みを幅広く用意し、多様なレベルの興味関心層に対してアプローチしていることがうまい仕組みだと思った。このような活動は今では企業の福利厚生や環境保全・地域貢献への取り組みとして導入され始めている。より多くの人を継続的に巻き込むために企業との協力を始める必要もあるのかなと考えた。

2. 地域と行政と研究者のつながりについて
地域の問題に対して、地域と行政と研究者が足並みをそろえて活動を進めているのが印象的であった。地域で取り組まないといけない課題は、獣害、空き家、水など挙げ始めるとキリがない。そうした課題に取り組むためには多大な経費と労力がかかるが、利益を生み出しづらい。そのため、地域住民の有志だけで活動を継続させるのは多くの場合難しく、行政のサポートが必要不可欠である。丹波篠山市では、獣害対策に行政も人員を充てて携わるなど、行政が積極的に地域の課題に携わっていたのが印象的であった。また、研究者も獣害対策に携わり、適切な個体数維持につながる鳥獣捕獲に取組んでいるのはすごいと感じた。被害を生み出すから捕獲して個体数削減一辺倒になるのではなく、個体数の維持を目的とし、捕獲駆除を進められているのは珍しい事例のように思える。さともんの鈴木さん、川添さんをはじめとした方々が、長年にわたってサルの個体群の把握と追跡をしてきたからできることである。なかなか、鳥獣被害において地域に根付いた研究者は多くないように思うが、研究者として新しいキャリアのように思えた。丹波篠山市のように、地域・行政・研究者の強固な協力関係が生態系保全につながっているのはこれまでさともんが進めてきたプロジェクトで生まれた信頼の賜物だと思う。なかなか各自治体に研究者を派遣するわけにはいかないと思うが、都道府県レベルで行政の中あるいは行政に近いところに、地域でうまく活躍できる研究者を置く必要もあるのかなと考えた。

3. 地方を今以上に盛り上げるために
地方の魅力を発信し、関係人口増加、さらには人口増加に繋げるためには、地域内外に対してうまく

コミュニケーションをとることのできるスペシャルな人が必要であることを学んだ。都会に住む人の中にも、地域での暮らしに興味を持つ人は少なくない。その層に対してアプローチをしかけることで、関係人口の増加、そして、移住者の増加につなげる必要がある。ただ、これを実際に行うのは非常に難しい。なぜなら、地域の課題や魅力を言語化し、地域が進むべき方向を提示し、地域内で合意を形成し、うまく足並みを揃えて行動していかないといけないからである。さらに、都会との利便性なども考慮し、どのターゲット層に対してどういうアプローチを仕掛けるのかを考えることのできる、企画力やマーケティング力も兼ね備えていないといけない。もちろん、予算も限られているため多くの人員を確保するわけにはいかず、多くの企業では部署で分かれていそうな仕事を、一人あるいは少数の人員でリードしていかないといけない。間違いなく大変な仕事であるが、非常にやりがいのある仕事であるようにも思える。地方に食料生産はかかっているし、休暇でのリラックスといった精神的な充足も地方にかかっている。だからこそ、地方と都会、地方と企業、地方と学校といった、個人だけではなく組織とのつながりを強めていくことによって、地方の暮らしや産業を維持させられる仕組みが必要とされている。

サルの捕獲罠。遠隔で監視・操作することができ、管理者の負担も最小限に抑えることができる。地域・行政・研究者で協力して個体数の管理を行っていた。

4. さいごに

今回お世話になった特定非営利活動法人里地里山問題研究所の鈴木様・川添様、美味しいイノシシ肉と料理を準備してくださったカーリマンの新田様、獣がい対策員の木下様、地元の皆様、素晴らしい学習機会を提供くださり本当にありがとうございました。先頭に立って丹波篠山実習を企画・指揮してくださった關さん、ありがとうございました！

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp】宛にご提出ください。

６．その他（特記事項など）